



Be Creative



大人になる旅路の始まり

—第65回卒業証書授与式校長式辞—



三年生の諸君、いよいよ卒業の日がやってきましたね。ご卒業 おめでとうございます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、本当におめでとうございます。本日まで支えていただきましたこと、心よりお礼申し上げます。

きっと保護者の皆様の心の中には、幼き日の我が子の姿が往来していることでしょう。丸っこく、柔らかくに握られていた小さな手が、しなやかに開かれていく、あるいは骨太にたくましくなっていく、その様子を何ともまがしい思いで眺めていらっしやることでしょう。

親のありがたみとは何か、それはいろいろとありましようが、私は、その本人でさえ忘れてしまう幼き日のことをいつまでも大切に覚えていてくれることではないかと考えます。君たちの屈託のない笑顔や泣き顔、顔のみならず、その声さえも、その時の情景さえも、吹いていた風の有りようさえも、子どもがいくつになっても、親はありありと思い浮かべることができるのです。

幼い子ども・・・という、わたしだけでなく、画家のいわさきちひろを思い出す人はきっと多いことでしょう。彼女は絵のみならず、文才においても優れた人でした。私自身も彼女の書く文章に何度も励まされ、力をもらってきました。いわさきちひろに関わる私の思い出をひとつお話いたします。

何があったかは忘れましたが、「今日は仕事を休もう。家族にも内緒で、今日は私が行きたかったところに行こう。」そんな思いで、東京のちひろ美術館に向かったことがあります。忙しすぎる日々につぶされそうになっていたのだと思います。あそこに行けば優しくしてもらえる、慰めてもらえる、ゆっくりしていいよとってもらえる、そんな淡い期待とともに、ガンダムの駅メロが流れる駅に、私は降りたちました。美術館は、住宅街の静かなたたずまいの中に隠れるかのように存在をしていました。ちひろのあの優しい絵はどうやって生まれてきたのか。彼女のどんな心持ちから生まれてきたのか。そんな思いで絵を覗いて回る私の目に、こんなちひろの言葉が飛び込んできました。



私なんか、独身だったら気楽で、絵もバンバン描けるだろうと考えられるけど、とんでもないですよ。

夫がいて子どもがいて、私と主人の両方の母がいて、ごちゃごちゃのなかで私が胃の具合が悪くなって仕事をしていても、人間の感覚のバランスがとれているんです。

そのなかで絵が生まれる。

大事な人間関係を切っていくなかでは、特に子どもの絵は描けないんじゃないかと思います。

そうだったのか……。この文章の前でしばし私は立ちすくむことになります。

ああ、そうだったのか。忙しかったがゆえに生きてこられたのか。ごちゃごちゃだったからこそ、火事場の底力が出せて、仕事も回っていった。そうだったのか…。

ペンもノートも持たずに旅に出た私は、急いで美術館の小さな売店で腹ペコ青虫のペンと一冊のノートを買って、この文章を一生懸命写しました。自分の心に書き写す、そんな時間でもありました。

この文章を読んだ時、もう一つの彼女の文章である『大人になること』という文章を思い出しました。その文章の中で彼女はこう書いています。

若かったころ、たのしく遊んでいながら、ふと空しさが風のように心をよぎっていくことがありました。親からちゃんと愛されているのに、親たちの小さな欠点が見えてゆるせなかったこともありました。いま私はちょうど逆の立場になって、私の若いときによく似た欠点だらけの息子を愛し、めんどろな夫がたいせつで、半身不随の病気の母にできるだけのことをしたいのです。

ちひろはこの文章の最後をこんな言葉で結んでいます。

やりかけた仕事を一歩ずつたゆみなく進んでいくのが、不思議なことだけれどこの世の中の生き甲斐であり、こんなふうに自分が思えるのも、自分が大人になったからだ。大人というものほど苦勞が多くても、自分のほうから人を愛していける人間になることなんだ。

「人を愛する」ことが「自分を愛する」ことになっていくこの世の不思議さに包まれ、もう一度、あの忙しさの中に身を投じてみようと思ったことは忘れられない私の思い出となっています。久しぶりにこの時のノートを見返してみました。そこに、こんなメモがありました。

独り言心の中に埋め尽くし 美術館の庭を眺めおり
さがりたく珈琲ひとつ所望して 満たされてまた明日を生きる



今から14年前、奇しくもこの文章を書いたちひろとその時の私と同じ年だったことにも、今になって気づくわけです。不思議なものです。人は法の上では十八歳で「成人」となってしまう。しかし、本当の意味で人間が「大人になること」はずっとずっと先のことで、どうやら生きていく限り、人が追い求めるものらしい。みんなから見れば、私も含めて、皆さんの親御さんや先生方はずっと大人に見えていると思いますが、誰もが傷つきやすい心を抱えて生きている。支え合えられたら、自分のほうから人を愛していける人間になれたら…、お互いにそうした人間に成長することができたらと心から願います。どうぞ、私たちの人生に、価値ある幸せと苦難がたくさんありますようにと祈りながら、この良き日、卒業生の皆さんの旅立ちを心からお祝いしようと思います。

ご卒業、おめでとうございます。

台湾高雄市鼓山高級中学校と 姉妹校協定を結びました。

写真左から本校英語科主任榊原先生・本校校長・高雄市政府教育局副局長の呉文静様・鼓山高級中学校 Echo 校長・鼓山高級中学校 PTA 会長

